

病院理念 手には技術 頭には知識 患者様には愛を

新小文字病院

2017.1

Vol.40

ご自由にお持ち帰り下さい

はくとと はくと

Shinkomonji Hospital

2017年の年頭にあたって

院長、副院長の決意

冬の感染症に備えよう②

インフルエンザ

第44回 学術講演会

医療事故調査制度の事例に学ぶ

第7回新小文字健康フェスタを開催

昨年を上回る参加者

ナースステーションの24時間

看護師の仕事

かかりつけ医⑭

山田内科医院

トピックス・施設参加型研修

褥瘡について



小倉城大鏡餅を当院職員が撮影

謹賀新年

2017



新年あけましておめでとうございます。

初夢

雨にも負けず風にも負けず笑顔を絶やさず人の訴えをよく聞き、皆で力を合わせて一番の答えを出す。

地域の問題を自分の問題として考え、独りよがりにならずよく相談し、手を取り合って地域を元気にする。

伝統を大切にしながら新しいことも知り、それを分かち合い教え合い高め合うことを喜びとする。

良い医療を優先しきにくるんでさしだし、患者様だけでなくまわりも幸せにする、新小文字病院はそのような病院になりたい。

本年もご支援とご協力をお願い申し上げます。

皆さま、あけましておめでとうございます。

昨年1年間、救急医療をはじめとし、当院へご紹介頂き誠に有難うございます。

今後、高齢化社会での救急搬送件数の増加が予想され肺炎や骨折等の高齢者特有な疾患など総合的な医療が必要となると考えております。

当院の基本方針である、「高度医療」「総合医療」「地域医療」を目標に今年も各診療科が協力して治療にあたっていきたいと思っております。

また、当院は災害拠点病院であるため、職員教育として災害訓練等を行い院内全体で災害発生時に速やかに対応できるよう取り組んでいます。

今年もどうぞよろしくお願いたします。

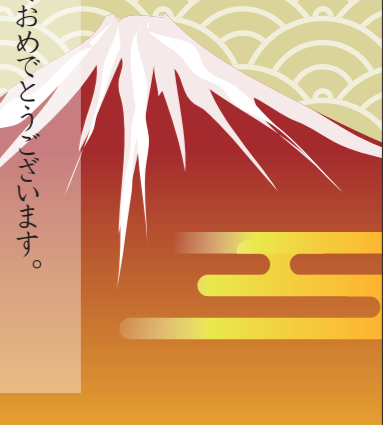
皆さま、あけましておめでとうございます。

今年は甲斐院長が掲げる地域医療構想について実行する年と考えております。医療連携室長として病診連携・病病連携をこれまで以上に推進していきます。

また高齢者社会への対応として、在宅医療や介護施設への支援を強化する所存です。

私の専門領域である呼吸器外科は門司区内の病院で唯一標榜しており、肺癌や縦隔腫瘍、膿胸、気胸など、外科的治療が必要な呼吸器疾患を第一に診療を行っておりますが、年々死亡数が増加している肺炎やCOPDについても専門医の立場で科学的根拠に基づいた診療を行っております。さらに当院は救急指定病院であり、胸部外傷に対する専門的治療を行うことで救急医療にも貢献したいと思っております。

今年もどうぞ宜しくお願いいたします。



院長 甲斐 秀信



副院長兼 内科主任部長 遠山 奈雅博



副院長兼 呼吸器外科部長 宗 哲哉

冬の感染症に備えよう②

インフルエンザとは

インフルエンザを「かぜ」のちよつと重いもののように考えている人がいますが、それは大きな間違いです。(表一)

インフルエンザはインフルエンザウイルスを起因とする疾患で、A・B・C型の3種類があり、このうち大きな流行の原因となるのはA型とB型です。インフルエンザにかかると、気管支炎や肺炎を併発しやすく、高齢者

などは重症化しやすく、命を落とす原因になります。

インフルエンザの流行時期

インフルエンザの感染力は非常に強く、毎年約1千万人、約10人に1人が感染しています。インフルエンザの発生は、毎年11月下旬から12月上旬頃に始まり、翌年の1〜3月頃に患者数が増加し、4〜5月にかけて減少していくパターンを示します。

インフルエンザの予防

① 感染経路を断つ

インフルエンザは、くしゃみや咳などの飛沫を吸い込んだり、粘膜に付着することで感染する飛沫感染、直接触れる直接接触や、ドアノブなどを介する間接接触で感染する接触感染という経路を通して感染します。従って手洗いや咳エチケットの実施で感染のリスクを少なくすることが出来ます。

② 予防接種を受ける

予防接種を受けていても感染したという話を時々耳にしますが、予防接種には感染予防の外に、発症後の重症化の予防効果が期待できます(予防接種を受けた高齢者は、死亡の危険が五分の一に、入院の危険が約三分の一から二分の一に減少することが期待できるとされています)。表2の方は定期予防接種の対象者となりますので、予防接種を希望する方は、かかりつけの医師にご相談ください。

《表2 インフルエンザ予防接種の定期接種対象者》

1	65歳以上の方
2	60〜64歳で、心臓や腎臓、呼吸器の機能に障害があり身の回りの生活を極度に制限される方。
3	0〜64歳で、ヒト免疫不全ウイルスによる免疫の機能に障害があり日常生活がほとんど不可能な方。

③ 免疫力を高める

免疫力が弱っていると、感染しやすくなります。また、感染した時に症状が重くなってしまう恐れがあります。普段から、十分な睡眠とバランスのよい食事を心がけ、免疫力を高めておきましょう。

インフルエンザにかかったときの対応

目安として、比較的急速に38度以上の発熱があり(予防接種者は37度台のこともあります)、咳やのどの痛み、全身の倦怠感を伴う場合は感染している可能性があります。

④ 発症から48時間以内に抗インフルエンザウイルス薬の服用を開始すれば、発熱期間の短縮などの効果が期待できます。

⑤ 高齢者の方や小児、妊婦、持

病のある方や重症化のサインが見られる場合は、すぐにお近くの医療機関を受診しましょう。

⑥ 汗をかいたときや脱水症状の予防のためにもこまめに水分を補給しましょう。

⑦ 周りの人にインフルエンザをつつさないために、咳エチケットを実施しましょう。

咳エチケット×手洗いで感染予防



首相官邸HPより引用

新小文字病院 第44回 学術講演会 「医療事故調査制度の事例に学ぶ」



新小文字病院第44回「学術講演会」が11月2日、当院で開催され、地域医療関係者や当院の職員の125人が熱心に聴講しました。

講演にあたり、当院の甲斐院長は「医療事故というのは、基本的には、人は間違いを犯すものだ」という前提で、何か起きた時にそれに対する備えや準備が来ているのか、知識を持っているのかによって、色々な事故、被害を小さくすることが出来ると考えています。あつてはならないことですが、このようなことは他の病院の事例から学ぶというのを、我々は心がけるべきではないかと思えます。今日は、そういった分野の貴重な実績や色々な事例を紹介していただいて、我々や皆様方の病院、施設の医療安全についての活動に活かしていただければと考えています」と挨拶をしました。

講演

「私はすでに10年以上、病院の第三者評価として知られている日本医療機能評価機構という団体で医療安全関係のための事業も担当しており、週に2回程度、東京と福岡間を往復しています。最近ではWHOの仕事も加わりましたので、今日の内容はそこで色々見聞したことや勉強してきた話をギュッとまとめて話をしたい。

評価機構とは公益的な仕事をする医療分野の団体で、病院の第三者評価をし

ており、医療事故やヒヤリハットの事例を収集する事業で、大学病院や国立病院などで起きたもののうち、重大なものは評価機構に全部届きます。さらにマスコミで報道されるものは、いち早く評価機構で調べています。

そのような医療事故の収集事業をしていて感じるのは、色々な医療事故を全国規模で見ますと、非常に頻繁に起きていくということが分かりますが、一施設単位になると、あまり頻繁ではありません。だからなかなか自分のことのように思えませんが、是非、他の施設で起きたことを自分の施設で起きたように感じ、先回りして自分の施設で起こさせないセンスを磨いてほしい。それは自分のためでもあり、自分の施設を受診する患者さんのためにもなりますので、そういう感覚を身につけていくことが大事だと思っています」と話をされました。



後 信先生
公益財団法人
日本医療機能評価機構
執行理事
九州大学病院
医療安全管理部教授・部長

療機関や地域の状況、扱っている病気、医療の提供の仕方も様々ですから、全国一律に適用出来る改善策というわけにはいきませんが、たくさん事例の中から、これは自分の所に向いているというのがあれば、取り入れれば良いと思います。

九大病院での事故の際にも、同じ内容のものが評価機構に集められた事例の中にありましたので、その改善策を使用しました。このようなことが出来るのは、これを報告してくださった医療機関のお陰です。それを活用すると有効なことがありますし、学習価値が高いものばかりです。普段は忙しいですし、かつ、1例でも2例でも、改善策の所だけでも見ただけであればいいと思います。評価機構のホームページにも専門領域ごとに切り分けて載せていますので、ご活用していただければありがたいと思います。

また、重大事故に繋がるかもしれない日常の小さなエラーを見て発生頻度を低くするような工夫をして、重大事故が起きる可能性を出来るだけ下げっていくことや、改善の取り組みを日頃から地道にやることが大事です。

私たちはそれが個人のエラーであつても、それを防ぐためのチームとか組織の在り方を改善していきますよという考え方に立っています。これは世界的な流れだということも、私も身をもって体験しています」と話をされました。



▲質疑応答



▲挨拶をする甲斐院長

次回の学術講演会の開催予定のお知らせ
次回の学術講演会は平成29年2月7日に産業医科大学呼吸器内科学、矢野和博教授の講演を予定しておりますので、ご参加をお待ちいたしております。

第7回 新小文字健康フェスタを開催

—— 昨年を上回る参加者 ——

第7回新小文字健康フェスタ2016を10月30日に当院第2駐車場で開催しました。開催にあたり甲斐院長が「新小文字病院は、門司を住みやすい街にするために職員が丸となって地域医療に取り組んでいきます」と主催者あいさつをしたあと、北橋市長から、「門司の地域医療機関の核として北九州市民をしっかり守っていただいている」というお誉めの言葉を頂きました。また各校区自治会長や門司消防署長、中村奥村両市議の来賓の方々や、自治会地域の方々、協賛を頂きました多くの企業のご好意のお陰をもちまして、来場者数も年々増加し、昨年を大幅に上回る1400名が参加され、大盛況のうちに幕を閉じることができました。

当日は最近にない珍しい秋晴れで暖かく素晴らしいイベント日和に恵まれ、過去最多の来場者で賑わい、地域の皆様によるステージでの歌や踊りに、楽しいひと時と感動を与えて頂きました。また、食べ物ブースや健康ブース、はしご車や地震体験車等は大勢の列ができたほか、マジック

ショーで大いに盛り上がりつつある光景を目の当たりにすると、無事開催できた喜びとやりがいを感じると共に、ご協力を頂いた方々への感謝の気持ちでいっぱいになりました。

最後に、無事終了することができましたのは、地域の皆様方の温かい、ご支援、ご指導の賜物と深く感謝いたしております。誠に有難うございました。

総務課 岡崎 晴彦



ナースステーションの24時間

看護師の仕事にも様々ありますが、病棟のナースステーションは看護師が24時間365日、患者さんの命を預かり臨床を行う重要な場所です。

8階は内科病棟で、32名の患者さんが満床で入院されますが、それを2交代制で受け持ち、1日に日勤14名、夜勤5名で看護を行っています。

看護師はリーダー、受け持ち、ケア等に役割を分担しています。リーダーは担当チームの患者さんの把握や各担当者との情報共有のほかに、医師から出た指示の伝達指示受け等の



舵取りを行います。受け持ちは各部屋を回り検温や状態観察、検査や手術だし等を行います。ケア担当は入浴や髭剃り、爪切りなどのお手伝い、部分浴や歯磨きなどの介助をします。また、自分でトイレに行けない方には、看護師が定期的にオムツの交換を行い、日中はリハビリのスタッフと離床活動を行い早期に入院前の環境に戻れるように看護しています。



日勤

日勤の仕事は、まず出勤した

を挨拶回りした後、全体朝礼で夜勤の看護師から申し送りを受け、入院患者さんの状態を把握し、患者さんの1日のスケジュールや検査などを確認します。

その後、病棟カンファレンスが開かれ、患者さんの治療や看護に関する情報共有を行います。それが終わると、一人一人の患者さんの点滴の交換や体温、血圧等のバイタルチェックを行い電子カルテに記録して様子を把握し、異常が見つかった患者さんを、すぐに医師へ報告し指示を仰ぎます。その他にもリハビリや検査、入浴できない患者さんに対して全身清拭などの身の周りのお世話をします。また、看護師が見守りや状態観察を行う中でデイルームでのレクリエーション活動などをし、気を休める暇もなく午前中が終わります。

午後からは食堂や自室での食事介助です。自力で食事摂取が出来ない方へのお手伝い、または経口摂取が困難な方への経管栄養での食事など、看護師が確

認を行い安全に食事が取れるようにしています。



夜勤

夜勤もまた、日中の様子を申し送られることから仕事が始まります。夜勤は看護師5名でリーダー、受け持ち、フリーに分かれています。通常は緊急性のない治療や検査は昼間に済ませ、日勤者が退社後に夜勤者も病棟内を見回り、夕食後の検温などを行います。

消灯後は安全、安心に快適で良質な眠りが得られているか、また、日中に状態が悪化していた患者さんの深夜の急変に備えて、日勤と同様にカンファレンスを行い、部屋回りをします。さらにナースコールがあれば、スタッフ全員で対応します。その間に患者さんの明日以降の検査や処置、退院等の準備も行い、病棟の1日は忙しくまたたく間に過ぎていきます。

病棟でのケアに大切なことは、患者さんの病状や性格、ご家族の意向、そして医師の治療方針を知っておくことです。患者さんが安心して療養でき、早期に退院されるよう、看護師全員で援助していきます。



近所の方の診療所について

当院は昭和47年小倉の朝日市場商店街に山田嘉英(前院長)が開業。
 地域のかかりつけ医、町内の方々のおしゃべりの場(?)として44年たちました。3世代4世代にわたってかかれるご家族もいらつしやるご近所診療所です。

私は 般内科、神経内科、リハビリテーション科を専門としており、神経内科については脳梗塞、脳出血、くも膜下出血の後遺症、パーキンソン病などの神経変性疾患、アルツハイマー病などの認知症疾患、頭痛、手足のしびれ、まひ、歩行障害、ふるえなどの症状を診ています。高齢や障害で通院困難な方には往診し在宅医療も行っております。

特徴、驚きのリハビリテーション法との出会い

私は内科に入局し神経内科からリハ科へ、そして遠賀郡の浅木病院で恩師三好正堂先生に師事、ハーシユバルのリハビリテーションを学びました。まひの回復を待たずに自宅退院、意識



CTやMRI検査をよく利用させていただいており診断治

ビタミン療法について(保険外)

30年前より、ビタミン注射を保険外で行っております。疲労回復目的の方が多いです。10年前より高濃度ビタミンC点滴を学び、治療を行っております。

新小文字病院との連携について

CTやMRI検査をよく利用させていただいており診断治

療に助かっております。当院には入院施設がなく、患者さんが急変された時はいつも迅速に対応をしていたいただいてありがたいですね。連携室も入院における患者情報の共有、治療方針の確認、担当医師への連絡を細やかにスムーズに行っていたいただき安心しております。

地域の皆様へ

慣れない病気の説明は分かりにくいものです。特に高齢者のかたへは「話は分かりやすく、でも簡単に!」をスタッフ全員で考え心がけております。高齢化や家族のかたち、事情も複雑になり身体的な事だけでなく、みなさまの気持ちや生活、心配の二つと向き合っていくことが出来ればと思っております。分からないことはお気軽におたずねください。



日本リハビリテーション医学会 認定臨床医 専門医
 院長 山田 康代



診察時間	月	火	水	木	金	土
午前 9:00~12:30	○	○	○	○	○	○
午後 14:30~18:00	○	○	○	○	○	—

医療法人 山田内科医院
 診療科 内科、神経内科、消化器内科、リハビリテーション科
 〒802-0023 福岡県北九州市小倉北区下富野1-4-47
TEL 093-531-1746

基本方針

高度医療

学問的に、技術的に高い水準の医療を提供します。そのために必要な施設・設備の整備拡充に努めます。

総合医療

患者様と医療情報を共有し、急性期治療から早期リハビリ、在宅医療まで一貫した、患者様のニーズに沿った安全で安心できるチーム医療を提供します。

地域医療

地域の医療・福祉施設と密接な連携を図り、いつでも誰でも安心して利用できる、救急医療に重点を置いた地域医療の中核病院を目指します。

患者様の権利と責務

1. 平等な治療を受ける権利があります。

患者様は、その社会的・経済的地位、国籍、人種、宗教、年齢、病気の種類によって差別されずに、平等な治療を受ける権利を持っています。

2. 治療を自己決定できる権利があります。

患者様は、医師による明確でわかりやすい言葉で十分な説明を受けた後で、治療を受ける権利、あるいは治療を受けることを拒む権利があります。

3. 情報を知る権利と情報を提供する責務があります。

患者様は、医師による診断・治療、または変わり得る治療方法・予後、今後予測される問題に関して知る権利を持っています。患者様は、自身の症状や健康に関する正確な情報を提供し、治療に積極的に参加する責務があります。

4. セカンドオピニオンを受ける権利とプライバシーが守られる権利があります。

患者様は、自分の医療内容に対して、医師と共同して選択する権利、他の医師からの意見・相談を得る権利、いかなる場合であっても人格的に扱われ、患者様自身の診療に関する全てのプライバシーに関して、万全の配慮を受ける権利を持っています。

5. 相談する権利があります。

患者様は、十分な情報を得、利用可能な財政的支援について相談する権利を持っています。

6. 良質な医療を速やかに受ける権利があります。

患者様は、効果的医療行為を速やかに行われることを要求する権利、継続的に支持、検討された質の高い医療を受ける権利を持っています。

7. 病院秩序を守る責務があります。

患者様は、全ての患者様が安全で良質な医療を受けられるように配慮して頂くとともに、職員が適切な医療を行うことを妨げないよう協力する責務があります。また、医療費を適正に支払う責務があります。

トピックス 施設参加型研修会(地域の医療・介護施設の職員を対象)

今年度の第5～6回目の施設参加型研修会は「褥瘡について」の内容で8/18と9/15の2回シリーズで実施しました。

昨年と同様のテーマで行いましたが、その際に内容が多すぎて理解が難しかったとの感想が寄せられましたので、今年は「第1回：褥瘡はどのように出来て、どのように治るのか?」「第2回：褥瘡はどうやって治すのか?」に分けて行いました。

参加された方から頂いた受講後のアンケートでも、「(講義の)進むスピードが合っていた」「理解しやすかった」との意見を昨年より多くいただきましたので、今回程度の内容が適切だと考えます。

課題としては、シリーズ形式のため第1回目の講義に参加していないと若干第2回目の内容が理解し難くなる傾向があります。また、具体的な治療方法を説明するためには専門的な用語を使用することもあり、アンケートの意見の中にも「理解でき

ない部分があった」とありましたので、今後はそれらの点を改善していきます。長年、勉強会をしてきて感じることは、教科書の内容をそのまま講義するよりも、多少内容がずれても身近な例に置き換えて話す方が、受講される方も興味が持ちやすくなるので理解に繋がり易くなります。

今回も貴重なご意見を多数いただきましたので、今後もより一層わかりやすい講義になるよう努力してまいります。

皮膚排泄ケア認定看護師 大谷 純子



新小文字病院 平成28年度施設参加型研修会開催予定のご案内

実施予定日	研修テーマ	講師
平成29年 2月16日(木)	褥瘡予防の介助ポイント ～実践!!体位交換と移乗～	理学療法士 18時～19時30分
3月9日(木)	知れば納得!脳リハ看護 ～もしかして脳卒中!?観察ポイント～	脳卒中リハビリテーション看護認定看護師 18時～19時

(毎月第3木曜日:18時～19時 実践含む研修 18時～19時30分)※日時変更になる場合もあります。来年度も様々なテーマを用意しておりますので、ぜひご参加ください。

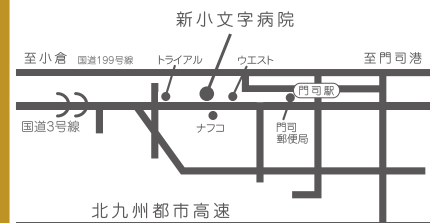
診療科目ご案内



内科・消化器内科・循環器内科
内分泌・糖尿病内科・呼吸器内科
外科・呼吸器外科・整形外科
リウマチ科・形成外科・皮膚科
泌尿器科・放射線科・脳神経外科
脊椎椎外科・救急科・病理診断科
リハビリテーション科・麻酔科



Access map



西鉄バス 新小文字病院前バス停で下車すぐ

駐車場のご案内

ご来院の際は400台
収容可能な駐車場をご利用ください。

- 外来者 / 手術付添 / お見舞い (家族・親戚)
4時間まで100円・以降1時間毎に200円
- 業者・お見舞い (一般)
1時間まで100円・以降1時間毎に200円

新小文字病院を 身近に感じる広報誌

Vol.40

2017年1月15日発行
企画：社会医療法人財団友会
新小文字病院 広報委員会
〒800-0057

北九州市門司区大里新町2-5
TEL：093-391-1001
FAX：093-391-7001

E-mail：info@shinkomonji-hp.jp
http://www.shinkomonji-hp.jp

新小文字病院

検索

Design

NPO 法人列島会
創造館クリエイティブハウス 印刷事業部